

文化財を訪ねる かみのかわ山さな旅

上三川城の名残を訪ねて(上三川)

鎌倉時代に築かれた上三川城を中心に、上三川が発展したといっても過言ではありません。宇都宮氏の南の要として築かれたこの城の周りには、敵の侵入を防ぐために、土塁や堀が巡っていました。残念ながら、現在残っているものではありません。しかし、本丸は上三川城址公園として整備され、周りを巡っていた堀や土塁の様子を見ることが出来ます。

上三川城の城内や隣接した地域には、家臣たちの家などのほか、神社や寺などが作られています。現在もこの地域には、寺社仏閣が多いのですが、ほとんどは上三川城が機能していた、鎌倉時代から室町時代に起源を持つものです。

城址公園にほど近い善応寺は、1320年に、上三川城主横田貞朝によって創建された、横田氏の菩提寺です。本尊の釈迦如来坐像は、鎌倉時代に作られました。その西約200mに位置する普門寺は、樹齢300年を数えるイチヨウで有名ですが、1473年に上三川城主横田綱俊の子綱親によって創建されたものです。その北300mに位置する白鷺神社は、上三川城が築城されたころの1250年に、初代城主横田頼業が、宇都宮の二荒山神社の御祭神を

一緒に祀り土産神としたと伝えられます。この東150mに位置する長泉寺は、1504年に上三川城主の今泉氏の菩提寺として創建され、1597年の上三川城落城の際には、一族や家臣が最後を迎えた場所とも伝えられます。本尊は鎌倉時代に作られた十二面観音で、境内には樹齢が500年を数えるコウヤマキがあります。

今回紹介したこれらの文化財は、上三川の中心部の1km四方に満たない範囲に位置し、歩いて散策することもできます。中世の上三川の雰囲気は今に伝える、これらの文化財に、皆さんも触れてみてはいかがでしょうか。



た報俳句

孫の雛ひこのひいなと目を細め 浜野 正男

種袋振って明日の音を聴く 大八木喜重郎

喜びを包みきれない試験の子 柳田 石村

日のぬくみ背中に集め芹をつむ 伊沢 静香

物言はぬ電柱の影日脚伸ぶ 蓬田 四方

秩父路や長滞の水温みけり 浜野マス子

歌姫のひばりの歌や初雲雀 阿部 信子

雛作り唄手と口はずませて 野沢 花枝

芋上の時期確めん農事メモ 上野キミエ

友よりの蒨味噌ありて朝飼かな 石崎セツ子